



◎開館時間：午前9時～午後7時
 ◎休館日：9月9日(木)
 23日(木)
 ◎白鷹町立図書館
 ☎87-0217

《白鷹町在住作家 丹辺るんの新刊ができました!》

『転校生は盲目幼女でした2～前世の記憶と魔法を頼りに生き延びます～』(アルファポリス)
 狼の聖獣ガルたちと穏やかな日々を過ごしていたフィリス。ひよんなことからガルとともに、
 かつて自分を虐げた父兄の現状を探ることに。その途中で、フィリスは自身の秘密を知って…!
 著者：丹辺るん 2018年よりwebで小説を執筆。2019年に『村人召喚?お前は呼んでない
 と追い出されたので気ままに生きる』でデビューに至る。女の子の活躍と魔法が好き。



《特集コーナー》

- 戦後76年～平和を考えるコーナー 8月
 戦争や平和に関する絵本や小説、記録書など多数展示しています。
- 消防コーナー
 常時展示しています。図書館隣の消防署白鷹分署で、消防車を見学できます。ぜひ消防署白鷹分署にお声がけください。

《第407回おはなしの会》

- 日時：9月4日(土)午前10時～
- 場所：町立図書館
 おはなしの会で、読み聞かせをしてくださっている「しらたか子どもの本研究会」が、令和3年度子供の読書活動優秀実践団体として文部科学大臣賞を受賞しました。

《今月の新着図書》(掲載しているのは新着図書の一部です)

主な新着図書	著者	主な新着図書	著者
ヒトコブラクダ層ぜつと上・下	万城目 学	感じのいい、大人服	美濃羽 まゆみ
零の晩夏	岩井 俊二	こどもサピエンス史～生命の始まりからAIまで	ベンクト＝エリック・ エングホルム
他者の靴を履く	ブレイディみかこ	ドクターイエロー (絵本)	鎌田 歩
地球を壊す暮らし方	中村 健吾 / 監訳	ばけねこ (絵本)	杉山 亮

ふるさとの宝「小松文庫」を紹介します!

◆「小松文庫」とは

山口出身の小松正衛(しょうえい)氏より「郷土蚕桑のために、活用していただきたい。文化の振興に役立てていただきたい。」と寄贈していただいた図書です。昭和62年から平成11年までの間に、約7千冊もの図書をいただきました。

◆「小松文庫」の場所は

桜の里文化伝承館(蚕桑地区コミュニティセンター)2階

◆小松正衛氏プロフィール(大正6年～平成8年)

昭和13年、文藝春秋社入社。取締役営業局長、常任監査役などを経て社友となる。その間、骨董の収集と研究に興味を持ち、収集した数は種類・時代・数を問わず膨大であった。「良寛」研究にも造詣が深い。



◆小松正衛氏の著書

- 『豊道入門』
- 『壺入門』
- 『李朝のやきもの』
- 『死に方の極意』
- 『うれしい骨董』
- 『古美術巡礼』
- 『良寛さま』など

・平成13年桜の里文化伝承館の増改築に伴い、2階に図書室「小松文庫」が新設されました。
 ・「小松文庫」の貸し出しは、蚕桑地区コミュニティセンターで行っています。当時の数々の名著が並んでいますので、ぜひ手に取ってご覧ください。
 <問合せ先> 蚕桑地区コミュニティセンター
 ☎85-2153
 町立図書館でも小松氏の著書をそろえています。郷土資料室に特設コーナーを設けていますので、ご覧ください。

ふるさと
わたしは“白鷹町”で働いています。



株式会社アーレスティ山形
橋本 勇輝さん（荒砥甲・34歳）

企業データ

■株式会社アーレスティ山形
（白鷹町大字荒砥乙 65）
【事業内容】アルミダイカスト製品製造
【従業員数】255人
【問い合わせ】
☎ 85-5233



入社したきっかけは、弊社で汗を流して働く父の姿を小さい時から見て、自分も同じように働きたいと思ったことでした。現在は鑄造課設備グループに所属し、主に鑄造で使用するダイカストマシンの点検や整備等の業務にあたっています。とても大きな機械で作業時には何百万トンの圧力がかかるため、不慮の際には直接人命にかかわることになるので、整備不良等が無いように一つ一つ確かかつ丁寧に仕事を行うよう心がけています。

弊社で製造するほとんどが自動車部品として使用されています。今では日常生活にはなくてはならない自動車ですが、街中で見かけるたびに、自分の仕事の誇り、やりがい、そして責任を強く感じています。



歌うことが好きで、最近ではアプリのカラオケで熱唱しています！

町報川柳 — 風 —

待ちました五輪パラリンそよ風で	滝野 小関 俊英
接種終え帰る車中に初夏の風	鮎貝 羽田 孝輝
千の風になったところで目が覚めた	鮎貝 植木 英夫
黒い雲すこい雨と風雹がポンポンはねている	山口 渡部喜美子
山菜の風味求めてスーパーへ	坂戸市 安達 功
コロナ禍は人情さえも風化させ	荒砥乙 保科 努
風そよぎ汗だくの身に涼もらう	浅立 梅津美千子
たんぼぼの綿毛追いかけどこいつた	箕和田 土屋 平敏
コロナ禍に風のたよりに知る安否	箕和田 土屋 敏子
風よりもコロナが怖い今時世	山口 石川與次衛門
故里の風はいつでも暖かい	世田谷区 遠藤 八重
風邪ひいたコロナだがと熱はかる	高岡 安部 健一
田舎では花鳥風月清々し	荒砥甲 鈴木美貴子
台風よあまり強い吹かないで	山口 児玉 保子
庭の花風にふかれておどって笑って楽しそう	広野 新野智耶子
新しい命吹き込む初夏の風	荒砥乙 五十公野春巳
心地よい風がほほを通り過ぎ	高玉 高橋 朝子
畑立ちそよ風受けて汗ぬぐう	十王 松野いせ子
花達が風にゆられてハーモニ	荒砥乙 木口 とよ
風を読み寄らば大樹の金バッチ	十王 守谷 勝助
春風に姉さ被りて野良に出る	菖蒲 小関 弘
不景気を笑い飛ばそう春の風	十王 守谷 三郎

次回「便」八月二十五日まで／「翔」九月二十四日まで（※作品には、ふりがなを振ってください）
白鷹町大字荒砥甲八三三番地 白鷹町役場企画政策課情報係 宛